

東北デスティネーションキャンペーン（DC）がスタートしました！

4月1日から東北6県が合同で、6ヶ月間開催する東北DCがスタートしました。

4月3日には、東日本大震災から10年の節目に開催するDCを記念して「東北DC復興号」が運行され、多くのお客さまにご乗車いただきました。この列車の運転に合わせ、東京駅、盛岡駅、新青森駅でオープニングセレモニーを開催しました。東京駅では、ご乗車いただくお客さまの代表者に記念品をお渡しし、東京駅長の出発合図とともに東北各地の観光地に向けて出発した列車をお見送りしました。

盛岡駅のセレモニーでは、さんさ踊りのオープニングアトラクション、岩手県達増知事から主催者挨拶、テープカット、いわておもてなし宣言等を実施しました。その後、観覧スペースは整理券方式とし、完全入替制にするなど感染症防止対策を徹底したうえで、ステージイベントや体験ブースなどのオープニングイベントを実施しました。

新青森駅では、津軽三味線演奏の後、青森県三村知事からの主催者挨拶や開会宣言を行い、セレモニー出席者と駅社員らで、「東北DC復興号」でいらしたお客さまのお出迎えを実施しました。

なお、セレモニー開催ができなかった各駅では、駅社員によるお出迎えが実施されました。



【セレモニー（東京駅）】



【セレモニー（盛岡駅）】



【セレモニー（新青森駅）】

●東北DC共同記者発表を行いました（3月16日）

ホテメトロポリタン仙台にて、東北DCの概要に関する記者発表を行いました。東北DC推進協議会小縣会長およびJR東日本深澤社長より東北DCの概要について説明するとともに、各県知事・仙台市長からの東北DC開催に向けたビデオメッセージを流しました。メディアを通じて、東日本大震災から10年の節目に開催する意義や、安全・安心して旅を楽しんでいただくための取組み、様々な東北DCの事業について発信しました。



【記者発表の様子】

●「東北PR局」を開設しました。

地域のおすすめ情報を発信する「東北PR局」を開設しました。皆様もぜひ、「#東北PR局」で思い思いの画像を投稿してください。他にも、東北DCナビなどのデジタルツールを活用した情報発信や、ポスターやガイドブックも活用して「東北の魅力」を広く発信してまいります。



【#東北PR局】



【東北DCナビ（ホームページ）】

仙台商工会議所全部会合同3月定例常任委員会にて東北DC推進協議会小縣会長（東観推特別顧問）が講演しました（3月9日）

東北DC推進協議会小縣会長（東観推特別顧問）が、「Post-COVID-19: 東北観光の活性化～東北DCに向けた機運醸成～」と題して講演を行いました。企業経営者の皆様に向けて、DXと経営環境の変化、ポストコロナにおけるテレワークの進展と付加価値の高いモビリティへのシフトなど、観光を取り巻く状況についてお話ししました。その上でコロナ禍における東北の新しい観光に向けた課題や、DCを契機としたデジタルの取組みなどについてお話しし、DC開催に向けた機運醸成の大きな力となりました。



【講演の様子】

東観推第5期中期計画の骨子と東北観光DMP（データマネジメントプラットフォーム）の取組みについて

【第5期中期計画の骨子】

2021年度から5年間の第5期中期計画において、東北観光を取り巻く環境・課題に対し、下図の6つの基本戦略のもと取り組んでまいります。

東北観光の早期回復だけでなく、「TOHOKU」ブランドの確立とDXの推進による取組みを進めて、新たな観光需要をいち早く捉えられるよう事業を展開してまいります。

第5期中期計画・6つの基本戦略

新しい観光需要の創出

震災・自然災害からの再生

オール東北での観光地域づくり

受入環境の整備促進

持続可能な東北観光の実現

デジタルファーストの推進

【東北観光DMPの概要】

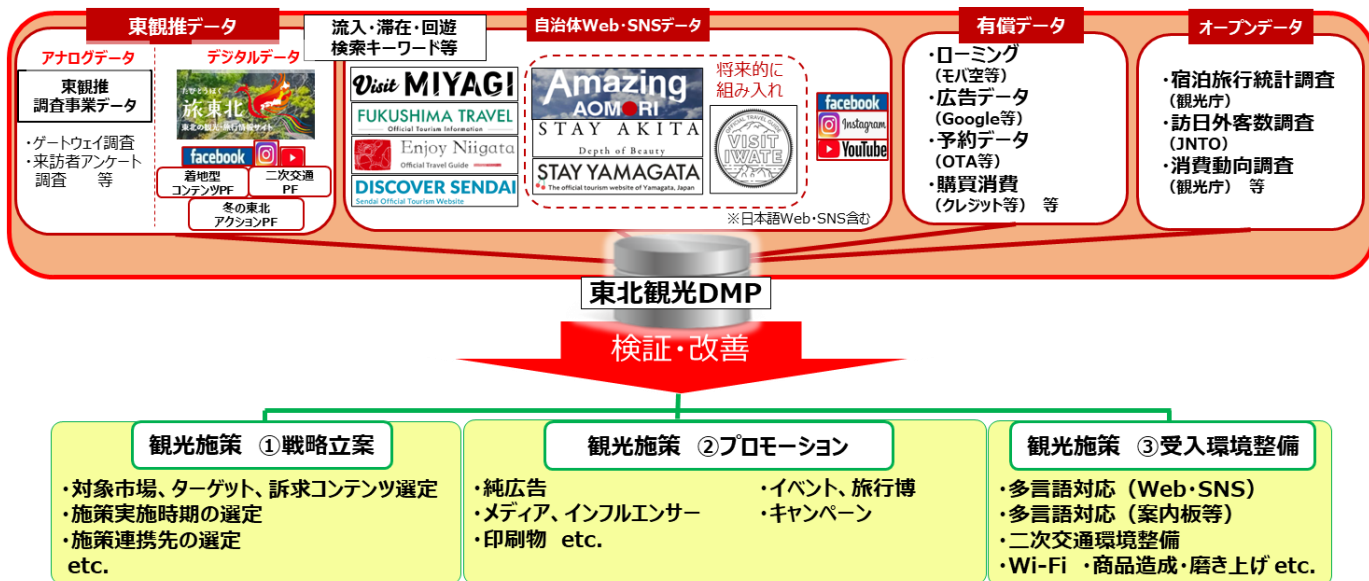
この第5期中期計画における新事業の大きな柱の一つが、東北観光DMP（データマネジメントプラットフォーム）の構築・運用です。

東北観光DMPとは、観光マーケティングデータを域内で横断化し可視化・共有の上、東北観光戦略のPDCAを効率化・深化するためのツールです。これまではデータを個別保有していましたが、デジタルとアナログを掛け合わせたデータを東北域内で一元的に管理し、域内自治体等と共有の上分析をすることによって、客観的な指標に基づくタイムリーかつ柔軟な戦略策定・実行に活かします。今年度、まずは宮城県・福島県・新潟県・仙台市と連携してシステムの構築・運用を行います。今般、急激に進むDX化において東北観光DMPの活用を通じ、域内のデジタルリテラシーの底上げも図られるよう、事業を進めてまいります。

【これまでの課題】

- ・広域周遊推進のためのデータが不足
- ・プロモーションの客観的効果測定が困難
- ・柔軟かつタイムリーなPDCAが必須

観光マーケティングデータを域内で横断化し可視化・共有の上、東北観光戦略のPDCAを効率化・深化



「東北復興イベント ディスカバリー東北キャンペーン」(函館) プロモーションイベントに出展しました(3月1日～19日)

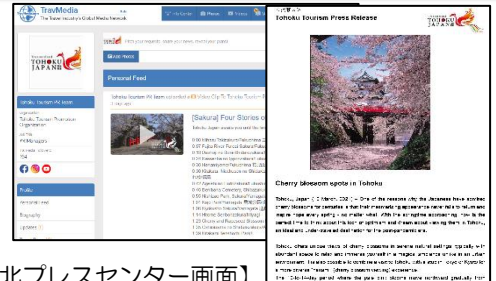
函館蔦屋書店にて、北海道新聞社主催の「東北復興イベント ディスカバリー東北キャンペーン」が開催されました。本イベントは震災復興10年の節目に、東北の復興の歩みと現在の魅力を北海道の方々に伝えるPRイベントであり、東観推の他に、山形県と秋田県が出展し、アテンドやステージイベントを通じて会場を盛り上げました。他の県については、提供いただいたパンフレットおよびノベルティを活用し、オール東北のプロモーションを行いました。ブースに立ち寄っていただいた方々はパンフレットを積極的に持ち帰っており、特に「東北デスティネーションキャンペーン観光ガイドブック」が人気でした。「早く旅行に行きたい」と意識している方が多く見受けられ、コロナ収束後の旅行先を検討されている方々へのPRとして、大変効果的なキャンペーンとなりました。



【会場の様子】

欧米メディア向け専門サイト「TravMedia」内の東北プレスセンターにて情報発信を行いました(3月12日)

海外メディア向けの取組みとして、東観推では、多くの有力海外メディアが登録する「TravMedia」に「東北プレスセンター」を12月より開設しました。4月7日現在、英・米・仏あわせて約430名の記者にフォローいただいております。情報発信の第3弾として、「Cherry blossom spots in Tohoku」と題した情報を掲載し、海外メディアからのお問い合わせをいただいております。引き続きリモート広報を通じて各媒体への記事掲載を進め、各県市と連携した広域での効果的な情報発信に取り組んでまいります。



【TravMedia 東北プレスセンター画面】

台湾 震災10年感謝イベントにてPRを実施しました(3月13日～14日)

台北市「華山1914 文創園區」にて、公益財団法人日本台湾交流協会主催のイベントが開催されました。東日本大震災から10年を機に、改めて日台のこれまでの友好関係を振り返り、今後の双方のさらなる発展を願うことを目的としたイベントであり、オール東北で参画しPRを行いました。東北各県及び東観推でブース出展(計8ブース)を行ったほか、台北ランタンフェスティバルが中止となり使用できなかった東北のランタンの展示、被災当時から現在までの復興の道筋を示すパネル展示等を、現地コーディネーター等と連携して実施しました。

東観推が台湾との連絡調整役を担うことで、渡航制限期間中においても台湾現地でオール東北での取組みを実現した結果、イベント当日の快晴もあいまって来場者は2日間で約3万人となり、多くの台湾の方々に對して感謝と現在の東北の元気な姿をお伝えすることができました。今後も、コロナ禍においてもできる限りの取組みを全力で行い、渡航制限解除後の一刻も早いインバウンド回復に向けて尽力してまいります。



【東北のランタンの展示】



【会場の様子】

現地旅行会社等を対象としたオンラインセミナーを実施しました(シンガポール・マレーシア)(3月16日)

コロナ収束後の旅行商品造成及び誘客の促進を目的として、シンガポール及びマレーシアの旅行会社を対象としたオンラインセミナーを開催しました。現地からはシンガポールの旅行会社及びメディア20名、マレーシアの旅行会社82名が参加しました。各県市の新型コロナウイルス感染症対策の状況や、最新の現地状況を伝えるとともに、東北に訪れた経験のあるインフルエンサーによるプレゼンを通じ、東北の認知度向上や現地旅行会社等との関係構築を図りました。

アンケートによると、シンガポール・マレーシアともに出席した旅行会社の半数以上がまだ東北の旅行商品を造成したことがなかったが、回答者の約90%が「商品造成の参考になった」とのことで、本セミナーにおけるプロモーション効果があったことが伺えました。その他にもZoomのチャット機能を活用して視聴者から活発に質問をいただくことができ、オンラインでのセミナーの強みを活かすことができました。



【セミナーの様子】

東北歴史文化講座 現地ミニ講座を実施しました（3月14日） オンライン講座も第9、10回が公開スタート（3月5日、3月26日）

東観推では、会員企業の東日本旅客鉄道株式会社との共催により、東北各県の魅力・歴史・文化などの独自性のあるテーマを掘り下げて紹介する「東北歴史文化講座」を開催しております。3月は、第8回で取り上げた宮城県の歴史に関する現地ミニ講座を開催すると共に、第9回及び第10回のオンライン講座を公開しました。

●現地ミニ講座

3月14日に、東北域内から18名のお客様にご参加いただき、「大航海時代と政宗の知略」と題した宮城県（仙台市、石巻市、松島町）を周遊する現地ミニ講座を開催しました。石巻市では、サン・ファン館にて、濱田館長からご講演を頂くと共に、「サン・ファン・パウティスタ VR船内ツアー」を鑑賞し、2021年度解体予定の復元船「サン・ファン・パウティスタ号」の内部構造についての理解を深めていただきました。続いて、松島町に移動し、現地ガイドと共に松島・雄島にて雄島最古の板碑や座禅堂等を見学しながら散策しました。最後に、仙台市にて、伊達政宗晩年の城として築かれ、政宗の死後に廃された若林城跡を外部から見学しました。

ご参加のお客様には、マスクの着用、手指消毒及びソーシャルディスタンスの確保等新型コロナウイルス感染症対策にご協力いただきました。コロナ下のため、ニューノーマル対応での実施となりましたが、お客様からは「オンライン講座を視聴してから現地ミニ講座に参加したため、講師の解説をよく理解できた。」や「専門的な解説を聞くことができて、満足した。」等のご意見をいただくことができました。



【現地会の様子】

●オンライン講座

コロナ禍の状況をふまえて、事前収録をした講座の模様をホームページにて視聴いただくオンライン講座として、公開しております。3月は、第9回及び第10回講座を新たに公開しました。

<第9回>

【第1部】秋田（歴史）

テーマ：「菅江真澄（すがえますみ）の図絵で旅するみちのく秋田」
～漂泊の旅人は何を発見し、記録したか～

講師：石川 正己 氏（東京学芸大学教授）

【第2部】福島（文化）

テーマ：「高僧・徳一（とくいつ）と理想の仏都」
～仏像で訪ねる会津の仏教文化～

講師：若林 繁 氏（元 福島県立博物館学芸課長）

<第10回>

【第1部】岩手（歴史）

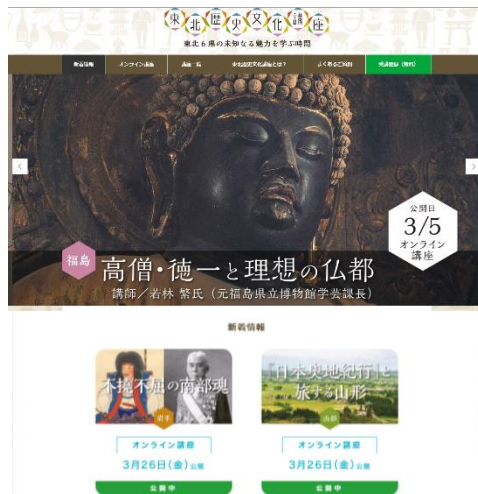
テーマ：「不撓不屈（ふとうふくつ）の南部魂」
～樫山佐渡（ならやまさど）から原敬へ盛岡の幕末・維新～

講師：田崎 農巳 氏（原敬記念館主任学芸員）

【第2部】山形（文化）

テーマ：「『日本奥地紀行』と旅する山形」
～イザベラ・バードが見つめた東北の素顔～

講師：赤坂 憲雄 氏（学習院大学文学部教授）



【専用ホームページ】

第8回講座も引き続き公開しておりますので、こちらも併せてご覧ください。詳細は、以下のホームページをご覧ください。<https://www.ireast.co.jp/tohokurekishi/>

第5回フェニックス塾を開催しました（3月19日）

今年度第5回「フェニックス塾」を秋田市の秋田県総合保健センター 大会議室にて開催し、22名の塾生が参加しました。第一部セミナーでは、日本政府観光局(JNTO)デジタル戦略アドバイザーの牧野友衛氏よりデジタルマーケティングについてお話をいただきました。第二部ワークショップでは、「コロナ禍をふまえ、東北地域に国内外からの旅行者を誘致するには」をテーマに、グループに分かれて東北の課題についてディスカッションしました。

【第一部】セミナー

テーマ：「ユーザー発信情報の活用を踏まえたデジタルマーケティング」

講師：日本政府観光局(JNTO) デジタル戦略アドバイザー

トリップアドバイザー株式会社 前代表取締役 牧野 友衛 氏

【第二部】ワークショップ



【牧野様によるセミナー】

第2回東北教育旅行誘致部会（オンライン）を開催しました（3月5日）

2020年度第2回東北教育旅行誘致部会をオンラインにて開催しました。本誘致部会では、東観推と各県等により2020年度の事業実績報告を行い、コロナ禍における各県の状況等を共有するとともに、2021年度における事業計画を共有し、次年度の取組み及び次年度以降の活動方針等を全体で確認しました。

また東観推では、2021年度の基本方針の中で、東北観光の第3の柱として東北教育旅行の推進を強化することとしております。東北の強みである「探究型学習、SDGsプログラム、震災・減災・防災学習」のさらなる磨き上げ等により、東北が一体となり、東北教育旅行のブランド化に向けて取り組んでまいります。



【オンライン開催の様子】

経団連オンラインイベントにおいて紺野専務が講演しました（3月2日）

日本経済団体連合会のオンラインイベント「あの日から10年、東北の未来を創る」において、紺野専務が「広域連携による東北観光の推進」と題して講演を行いました。東日本大震災後の東北観光復興に向けて官民一体となったトップセールスや東北広域でのプロモーションやマーケティング、域内コンテンツの磨き上げと商流整備、受入体制の構築などのオール東北の取組みや、訪日・国内の宿泊者数の推移についてお話ししました。また、震災から10年の節目で開催する東北DCにおける様々な業種との連携やコンテンツ整備、「TOHOKUサポーター」等の受入体制整備など、今後も持続的に東北観光に取り組んでいくことについてお話ししました。



【講演の様子】

2020年度第4回行政観光戦略会議（オンライン）を開催しました（3月3日）

東北6県、新潟県、仙台市の観光担当課長クラスの方々と、オンライン会議を開催しました。WEBセミナー、リモート広報、在留外国人招請などコロナ禍における新たな情報発信等の2020年度下期の活動報告、2021年度事業計画や収支予算案、東北デスティネーションキャンペーンおよび東観推や各県の今後の取組みについて意見交換を行いました。

第10回東北観光戦略会議を開催しました（3月8日）

経済団体、企業の実務責任者、東北6県、新潟県及び仙台市の観光協会・連盟の代表の方々等と、コロナ禍における新たな情報発信等の2020年度下期の取組みや、2021年度事業計画、東北デスティネーションキャンペーンなどについて意見交換を行いました。

第8回6誘致協6旅ホ連会議を開催しました（3月17日）

各旅行会社の旅館ホテル連盟、協力店会の代表者、各県の観光誘致協議会の代表者の方々と、コロナ禍における新たな情報発信等の2020年度下期の取組みや、2021年度事業計画、賛助会員制度の変更、東北デスティネーションキャンペーンなどについて意見交換を行いました。

第15回理事会を書面決議にて開催しました（3月30日）

新型コロナウイルスに関する宮城県独自の緊急事態宣言の発出を受け、書面決議にて開催しました。報告事項として2020年度下期事業報告の他、審議事項として新規入会の件、2021年度事業計画・収支予算の件、第5回通常総会の開催の件について理事全員からの同意により理事会決議が成立しました。その結果、東観推の会員数は234団体となりました。

日本観光振興協会との東北の観光振興に係る事業連携協定の締結について

東北地域の観光振興と地域経済活性化をより効率的に実施することを目的として、「東北の観光振興に係る公益社団法人日本観光振興協会と一般社団法人東北観光推進機構との事業連携に関する協定書」を3月に締結しました。国内外における東北プロモーションや観光人財育成における共同事業の実施のほか、日観振の東北支部事務局を東観推の推進本部内に設置いたします。

- ・事務局長 事務局長事務取扱 澤田 博之（（一社）東北観光推進機構 推進本部本部長代理）
- ・連絡先 メール：jitta-tohoku@tohokutourism.jp
- 住所、電話、FAXは東観推のものと同様です（ページ左下をご連絡ください）

日本観光振興協会「旅はグーだ！プロジェクト」 東北地方編公開中

昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響で観光需要が消滅し、地域経済を支える観光産業は大変厳しい状況が続いております。そのような状況でも、全国の観光地のみなさまは一丸となって、この危機を乗り越えようと頑張っています。

日本観光振興協会では、そんな地域の皆様が登場し、「いつかきっと会いたい」というメッセージをお届けする動画を公開しております。4月7日より、東北地方版が公開されました。ぜひご覧ください！

<http://www.nihon-kankou.or.jp/home/gooproject/>



東北観光推進機構の人事異動について

東北観光推進機構推進本部において人事異動がございましたのでお知らせいたします。

<転出 3月31日付>

- ・事業推進部長 村上信二（日本旅行へ帰任）
- ・事業戦略部統括マネージャー 佐々木大輔（JTBへ帰任）
- ・事業推進部チーフ 阿部真之（仙台市へ帰任）
- ・事業推進部チーフ 今野明日美（山形県へ帰任）
- ・事業推進部チーフ 菅野正成（福島県へ帰任）
- ・事業推進部チーフ 柏山貴久（岩手県へ帰任）

<転出 4月15日付>

- ・東北DC部チーフ 大城史教（東急へ帰任）

<推進本部内異動 4月1日付>

- ・事業推進部長 妹尾孝之
- ・事業推進部統括マネージャー 高橋健一
- ・事業推進部アシスタントマネージャー 高橋謙太郎
- ・東北DC部チーフ 岩出翔太（事業推進部より異動）

<転入 4月1日付>

- ・事業戦略部統括マネージャー 小泉俊夫（JTBより）
- ・事業推進部統括マネージャー 齋藤浩之（日本旅行より）
- ・東北DC部アシスタントマネージャー 大向宏（クラブツーリズムより）
- ・総務渉外部チーフ 田中暢子（日本航空より）
- ・事業戦略部チーフ 滝沢俊明（東急より）
- ・事業戦略部チーフ 小山純人（山形県より）
- ・事業推進部チーフ 雨田吉浩（HISより）
- ・事業推進部チーフ 佐藤弘樹（福島県より）
- ・事業推進部チーフ 高橋弘樹（仙台市より）
- ・事業推進部チーフ 小澤侑里奈（岩手県より）
- ・事業推進部チーフ 高橋翔太（NEXCO東日本より）
- ・東北DC部チーフ 高橋雅（ジェイアール東日本企画より）
- ・総務渉外部 廣瀬浩子（派遣社員）

<転入 4月12日付>

- ・事業戦略部統括マネージャー 武澤秀一（NTT東日本より派遣）



東北DC「東北PR局」や「TOHOKUサポーター」で盛り上げていきましょう！

●「東北PR局」での発信をお願いします

地域のおすすめ情報を発信する「東北PR局」を開設しております。皆様もぜひ、「#東北PR局」で思い思いの画像を投稿してください。

●「TOHOKUサポーター」への登録をお願いします

皆様ひとりひとりの取組みで東北DCを応援していただく「TOHOKU サポーター」（「Welcome to TOHOKU隊」「TOHOKU Fan」の総称）のお申込みを続々といただいております。登録内容は東北DCホームページ上で公開しております。引き続き皆様のご登録をお待ちしております！

<https://www.tohokukanko.jp/dc/>



「旅東北NEWS」VOL.031 2021年4月15日発行
【発行】一般社団法人東北観光推進機構
仙台市青葉区一番町2-2-13仙建ビル8階
【TEL】022-721-1291 【FAX】022-721-1293
【Email】info-ttpo@tohokutourism.jp

「東北観光推進機構」公式Facebook

東北6県・新潟県の旬の観光情報を配信中！

<https://www.facebook.com/tohokukanko/>

「いいね」「シェア」をよろしくお願いします！